

がん患者とその家族・友人がとまどい孤独なとき、自分の力を取り戻す居場所 マギーズがんケアリングセンターを日本へまずは東京へ

新規がん罹患患者数は約 88 万人(2014 年)に達すると推計され、2 人に 1 人はがんを経験する時代です。研究チームの発表によると、がんと診断された人のうち 1 年以内に自殺や不慮の事故で死亡する人は、それ以外と比べて約 20 倍とされています。そして医療の進歩によって治療効果が飛躍的に向上すると同時に、治療を続けながら暮らす長い年月には、再発の不安や戸惑いも少なくありません。しかしがんの当事者や関係者へのサポートはまだ十分とは言えない現状があり、国や地方自治体、がん専門病院などで、相談支援の強化が、急ピッチで進められています。

このような現状への 1 つの対応として秋山正子は、1992 年から 20 年間の訪問看護の実践をもとに、東京都新宿区の都営団地の一画で「暮らしの保健室」を 2011 年に始めました。近隣の専門病院や地域包括支援センターなどと連携し健康・暮らし・医療・介護などの相談に応じています。

この「暮らしの保健室」は、秋山がイギリスのがん患者相談支援施設 “maggie’s cancer caring centre” (以下マギーズセンター) に共感し、わが国でも必要という強い思いから作られました。

マギーズセンターは、がん専門病院のそばで独立した場所として、がんに関する詳しい看護師・心理士によって運営されます。がん患者や家族・友人、医療者など、がんに関わる人たちが、気軽に利用でき、訪れるだけで寛ぐことができ、必要に応じた支援が受けられ、自分の力を取り戻して、治療に向かっていける居場所です。無料で利用でき、運営費用は全て寄付によってまかなわれます。

一方、鈴木美穂は、自らががん罹患と闘病をきっかけに、患者の心理的社会的な相談支援がもっと必要、と痛感し、病院以外でがん患者が仲間と過ごせる「居場所」づくりを続けてきました。2009 年に若年性がん患者団体の「STAND UP!!」を、2013 年には中堅世代の女性がん患者にヨガや書道などのワークショップを提供する団体「Cue!」(キュー)を立ち上げ、活動を継続しています。「STAND UP!!」は 35 歳以下のがん患者が約 300 人登録し、日本最大の若年性がん患者団体です。

そして患者会の代表が世界中から集まる国際会議 IEEPO (International experience exchange for patient organizations) に、鈴木は 2013 年と 14 年に参加しました。その折に、他の参加者と「がん患者を精神的、社会的にサポートする場」について話し合うなかで、英国のマギーズセンターの活動を知り、これこそ日本に必要、と考えたのです。

同じような社会課題に気付き、なんとか解決をと動いていた秋山と鈴木の出会いは、2014 年 4 月のこと。共鳴する仲間が集まり、イギリスのマギーズセンターのような居場所を日本でもパイロットスタディとしてつくろうと動き出しました。

大勢のご協力で、がん専門病院が多い東京都江東区豊洲に土地を確保し、家庭的な居心地のいい建物が 2016 年夏には完成予定です。がんに通じた看護師や心理士が、医学的知識のある友人のようにサポートします。患者とその家族・友人、医療者、サポーターなど、がんに関わる人たちがとまどい孤独なとき訪れ、気兼ねなく話すことができ、生きる力をまた取り戻せるように…。

そこは、治療などに費用がかかる患者と家族の負担にならないよう、無料です。

このような活動が、病院での治療や相談と協働し補い合い、全国のがん相談支援活動の向上や、がんに対する社会の理解促進に寄与すること、そして病気を隠さずにその人らしさを持って胸を張って生きられる社会の実現をめざします。

2016 年 4 月 NPO 法人 maggie’s tokyo

共同代表 秋山正子 鈴木美穂